

『関西学院大学心理科学研究』 発刊によせて

総合心理科学科 学科代表 三 浦 麻 子

このたび発刊した本誌『関西学院大学心理科学研究』は、関西学院大学心理科学研究室の機関誌であり、1975年以来、関西学院大学臨床教育心理学会によって38号までの刊行を重ねてきた『臨床教育心理科学研究』を発展的に解消し、号数を引き継いで表も新たに刊行することになったものである。これは、2009年度から文学部総合心理科学科の教育心理学専修（臨床教育心理学会の母体）と心理学専修が「心理科学専修」として統合し、このたび初めての学部卒業生を送り出すに至ったことに伴う、研究室としての「進化」の一環である。1923年に創設された旧・心理学研究室と1948年に創設された旧・教育心理学研究室、という日本でも有数の長さを誇る研究室の歴史を、心理科学研究室として今後も刻み続けるためのアーカイブとしての役割を果たすことになる。

さて、本誌の目的は、本研究室の構成員およびその関係者による「心理科学に関する研究業績の発表を促進し、心理科学の発展に寄与すること」にある。本誌は、関西学院大学リポジトリに登録されるのに伴い、論文情報（論文本体のPDFファイルを含む）はCiNii Articles（国立情報学研究所論文情報ナビゲータ：<http://ci.nii.ac.jp/>）から検索・取得可能となるので、心理科学やその関連領域の研究者や学生たちの目に触れる機会が多い。これまで幾多の先達たちが築き上げてきた「関学心理」の伝統に恥じない質保証が厳しく求められることは当然であり、将来的により優れた研究成果（例えばピアレビュー誌での論文公刊）に結実しうるような研究速報やテクニカルレポートが数多く掲載されることを願うものである。

近年、心理科学の研究領域は拡大し、特定のテーマごとにその研究が先端化しつつある。科学である限りこうした推移は当然のものであろうが、一方でそれぞれの研究成果の関連が容易には見えにくくなってきたとも言える。「総合」心理科学を標榜する研究室の機関誌である本誌が、研究領域の多層かつ多様な発展を踏まえながら、「人間」とは何かを解明するという究極のテーマを考察するための手がかりとして機能することを願ってやまない。